

科目名	人間の尊厳と自立 A					単位	2.0
担当教員	玉井 威						
授業形態	講義	開講期間	前期	配当年次	1	授業番号	2107

●授業のテーマ

[授業の目的・ねらい]人間の尊厳の確立と自立支援

●到達目標

従来の福祉における人間理解（人間観）を見直し、全人的な人間理解に基づく人間の尊厳の確立にたつて自立支援が行なえるようになる。

●学習内容(授業概要)

[授業全体の内容の概要]

今日、福祉と言えば、一般的に、社会的な制度・政策としての社会福祉を指すが、しかしながら、私たちが制度・政策を媒介にして福祉に関わっていくとき、ともすれば制度・政策が一人歩きし、人間不在の状況が現出しがちである。もしくは人間不在とは言えないまでも、制度・政策の対象としての一面的な人間理解にとどまる。人間の福祉、幸せの実現を図るには、こうした人間理解では不十分であるし、ときには人間の尊厳と自立を損ないかねない。人間の真の尊厳と自立を図るには、なによりも全人的な人間理解に立つことが肝要であろう。そのためには、まず人間の持つ実存的な諸条件を見据えた形での人間理解に立つことが必要である。その中でも、老い、病い、死は、人間にとって、もっとも根源的で実存的な諸条件であり、苦しみの根源である。授業では、これらの視点からの人間理解、人間観を学ぶ。

●学習内容(授業計画)

- 1 人間の尊厳と自立とは何か
- 2 文化としての老い（老いの様式、老いの両義性、棄老伝説）
- 3 人生（ライフサイクル）における老年期、老人の生きがい
- 4 「忘れ」の構造
- 5 実存としての老い
- 6 医療化社会
- 7 現代医療の特徴
- 8 医者・患者関係／病人役割
- 9 患者の権利擁護
- 10 死とは何か（いのち、生命現象とは何か）
- 11 キリスト教、仏教に見る死
- 12 死者の人権／尊厳
- 13 実存としての死
- 14 完成としての死
- 15 人間の尊厳の確立・自立支援

●準備学習・事後学習の内容

事前にシラバスを確認し、自分なりの考えをまとめておく。事後には、講義内容を確認し、今一度自ら考察し、レポートにつなげる努力をする。

●成績評価方法・基準

[単位認定の方法及び基準]

定期試験の成績で9割、平常点で1割

●テキスト（必携）

使用テキスト、特に使用しない。

参考文献、授業時に指示。

●参考文献／その他

授業時に指示。

●履修上の注意

単に受身の受講態度ではなく、常にレポート作成を念頭に置きつつ、主体的に学ぶことが肝要。私語は厳禁。質問は歓迎。